

標準委員会企画セッション

地震安全に関わるより高度な意思決定実践のための 地震PRA標準の利活用について

Utilization of Seismic PRA Standards for Advanced Decision-Making
Practices in Earthquake Safety

高田 毅士

日本原子力研究開発機構・室長

日本原子力学会地震PRA作業会・主査

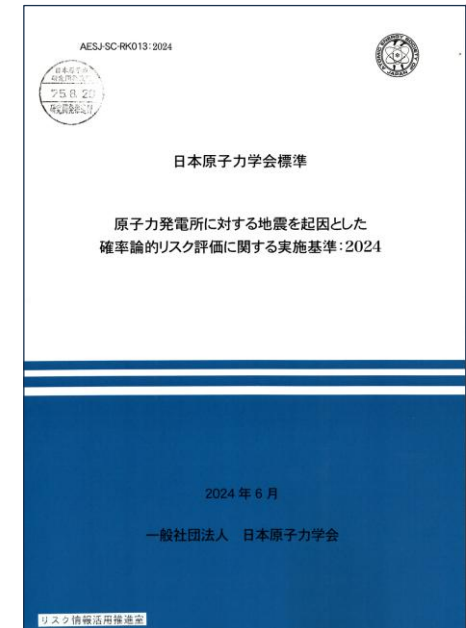
セッションの構成

- | | |
|----------------------------|--|
| 1. 地震PRA作業会の紹介と本セッション提案の背景 | 高田毅士(JAEA) |
| 2. 地震PRA標準の改定概要紹介 | 高橋容之(鹿島建設)
原口龍将(三菱重工)
藤岡文平(日立GE) |
| 3. 地震PRAの規制での活用 | 村上 玄(原子力規制庁) |
| 4. 地震PRA標準の利活用に向けた活動紹介 | 平塚大悟(九州電力) |
| 5. 討論:標準の利活用のあるべき姿とは? | 講演者全員 |

セッション内容

地震PRA標準の利活用について

- 地震安全は我が国では最重要課題
- 標準の改定
 - ⇒ 性能規定化(←仕様規定)
 - ⇒ SSHAC手法の取り込み
- 標準の利活用
 - ⇒ 事業者の活用(産)
 - ⇒ 規制者の活用(官)
 - ⇒ 学術界の活用(学)
 - ⇒ その他の活用(他分野との橋渡しに)
- 事業者の標準活用事例や標準に期待する事項の紹介(アンケート結果)



総合討論「標準の利活用のあるべき姿とは？」の論点

- 標準の改定（性能規定化、SSHACの取り込み）によって、ユーザがどのようなメリットが得られるのか
 - ⇒ 標準を発行することだけが、標準の目的ではない⇒ 活用を促進
 - ⇒ “より高度な意思決定”に活用するために、何が足りていないのか？
 - ⇒ “利用者の問題解決”のための標準になっているのか？
- より高度な意思決定を実践するための、地震PRA標準の役割（ツールとしての標準）
 - ⇒ 国内における地震リスクの重要性とリスク情報活用の関係
 - ⇒ 外部ハザードの信頼性、不確実さの捉え方に関する共通認識の醸成
 - ⇒ ピアレビュー制度の実践の必要性
 - ⇒ 学会標準の在り方と活用
- 今後の標準の利活用のあるべき姿とは？